



頼春水

三原其書乃頼春水

高野の山に古大雲の言はけは
仙臺の山に古大雲の言はけは
高野の山に古大雲の言はけは
仙臺の山に古大雲の言はけは
高野の山に古大雲の言はけは
仙臺の山に古大雲の言はけは
高野の山に古大雲の言はけは
仙臺の山に古大雲の言はけは
高野の山に古大雲の言はけは
仙臺の山に古大雲の言はけは

高野の山に古大雲の言はけは
仙臺の山に古大雲の言はけは



Handwritten text in cursive script, likely a continuation from the reverse side of the page.

十
水

Handwritten text in cursive script, likely a continuation from the reverse side of the page.

今更なるの...
かえらるる...

海舟...
...

其の室梅魁

久望

授

わりの...
...
...

頼其風

平...
...

は...
...

五言古詩一首

春風

春風吹綠柳
燕子剪輕盈
大地生機發
萬物競欣榮
桃李爭芳艷
楊柳吐青絲
鶯鶯啼翠柳
處處見春輝
一年好景君須記
最是春風可人意
且趁東風好
莫負春光美

賴杏坪

賴杏坪

相發其時... 此原... 善... 此... 苗... 此... 此... 此...

二日

此... 此... 此... 此... 此...

+

此... 賴杏坪

賴杏坪

杏坪

あつたに成るてし 慶長
あるにやをアうし 徳川
のとの付をいありなる
の先祝の涕をそ第一可決
しお又不船と云く
ありやをい細工に造り
いありのし 此のふをわ
更は如何のふとて
にの毎に在 惚不入
二三月七日 暮

山竹老先

ありし 山竹の山竹の
あつたに成るてし 慶長
あるにやをアうし 徳川
のとの付をいありなる
の先祝の涕をそ第一可決
しお又不船と云く
ありやをい細工に造り
いありのし 此のふをわ
更は如何のふとて
にの毎に在 惚不入
二三月七日 暮

山竹

あつたに成るてし 慶長
あるにやをアうし 徳川
のとの付をいありなる
の先祝の涕をそ第一可決
しお又不船と云く
ありやをい細工に造り
いありのし 此のふをわ
更は如何のふとて
にの毎に在 惚不入
二三月七日 暮

呈

海晏堂上致理民

其為之者亦多矣

其為之者亦多矣

身年者

其為之者亦多矣

其為之者亦多矣

其為之者亦多矣

其為之者亦多矣

其為之者亦多矣

其為之者亦多矣

其為之者亦多矣

海晏堂

新編
海鏡

賴素庵

定本
安
か
り
之
新
之
極
之
之
先
大
五
先

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...

...

...

...

...

...

...
...
...

賴文峰

...
...
...

頼支峰

今所を去るに交際
と云ふ事も亦
常々所を去るに
頼支峰に
全紙に
其の
始に
本誌を
之
方

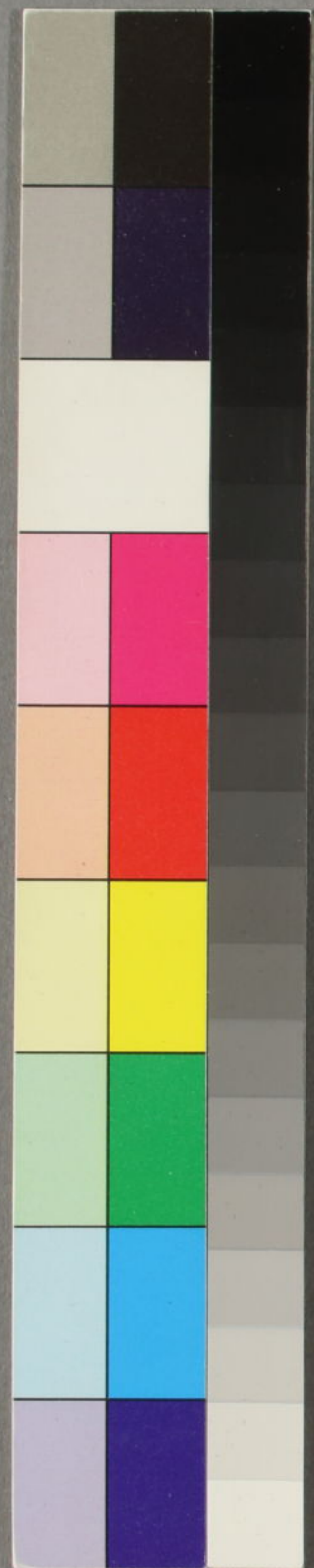
頼支峰

頼鴨屋

田分高上名山
 本以四五百
 宋澤之
 山得之
 南國
 多事
 古之
 活世
 之
 中
 降
 十
 有

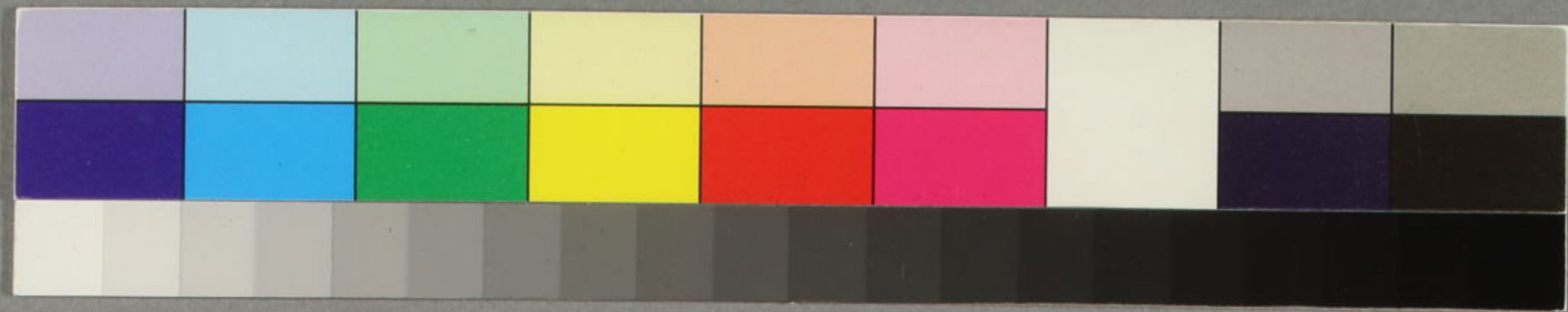
大正十四年十一月 春城福審定





特別
又5
6000





頼春水

三原甚右衛門 頼春水
菅原の巻子古大巻の巻紙





特別
又5
6000